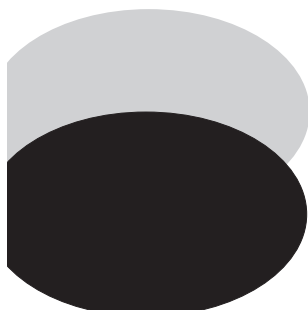


20190731

絵本学会 NEWS No.64

発行：絵本学会
発行日：2019年7月31日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5
刈谷市美術館内 絵本学会事務局
E-mail office@ehongakkai.com
http://www.ehongakkai.com



絵本学会

第22回 絵本学会大会報告
絵本学会 第22回定期総会
各委員会からの報告
絵本学会 Who's who
新入会員紹介
理事会議事録

－第22回 絵本学会大会（6月1日・2日）大会報告－

第22回絵本学会大会実行委員会

第22回絵本学会大会は、6月1日(土)・2日(日)の2日間、大会テーマ「絵本と教育～メディアとしての絵本、その魅力と多様性を探る～」を掲げ、帝京大学八王子キャンパスで開催されました。帝京大学は、学生数が2万人を超える総合大学で、2016年には創立50周年を迎えました。大学の施設は、リニューアルされた最新の設備を備えています。本大会は、教育学部の教員が、事務局を運営し大会実施にあたりました。

大会参加者数は、総数233名(会員140名、一般(学生含)93名)で、多くの皆様にご参加いただきました。

大会1日目の開会式は、絵本学会澤田精一会長、大会実行委員長の辻政博の挨拶に続き、メディアアーティスト、絵本作家である岩井俊雄先生の大会記念講演「絵本と教育～メディアとしての絵本、その魅力と多様性を語る」が行われました。メディアアートの第一人者が語る講演は、AI時代の到来のなかで、改めて、子どもや絵本の意味や価値を考えさせたいへん興味深い内容でした。その後、研究発表会場4室に分かれ、熱心な発表・質疑が繰り広げられました。その他、理事会、総会、交流会と、多数の理事や会員の参加を得て行われました。

大会2日目は、午前中3室に分かれて研究発表が行われ、昼には作品発表(4名)、午後から3会場に分かれてのラウンドテーブル、閉会式と続き、16:00に大会は終了しました。

2日目の各研究発表会でも、熱心な討議が行われました。研究発表

の2日間の総数は25件でした。作品発表では、単に作家志向の活動ではなく、絵本制作を通して、豊かな人間形成を目指す姿が見られ、今後の作品発表の方向性を感じることができました。

ラウンドテーブルでは、各コーディネーターと話題提供者を中心に、A「絵本作家がかぐいひろしと教育者加岳井広を架橋するもの」、B「宗教と絵本～仏教・キリスト教・イスラーム教の絵本を通して～」、C「ブルーノ・ムナーリの絵本と教育」が行われ、大会テーマである「絵本と教育」の視点を交えて、活発な協議がなされました。その他、本大会では、協賛各社による教材・資料展示や第49回世界児童画展やサイン会等の関連イベントも実施しました。多くの関係の皆様のご協力、ご支援のもと、大会を無事開催することができました。絵本学会の今後の発展のために、本大会の経験が今後に生かされることを期待します。

(文責：辻 政博)

－大会実行委員会－

辻政博(帝京大学教育学部)、吉田久実(帝京大学教育学部)、大貫真寿美(帝京大学教育学部)、和田直人(日本女子大学)、水島尚喜(聖心女子大学)、森 寛(大正大学)、有福一昭(有明教育芸術短期大学)、穴澤秀隆(NPO市民の芸術活動推進委員会)

第1日　6月1日(土)　13:00～14:30 記 念 講 演 「絵本と教育～メディアとしての絵本、その魅力と多様性を語る」 講　師:岩井　俊雄氏(メディアアーティスト、絵本作家) もう、おもちゃは買ってあげません！ 小学3、4年生頃のある日のこと、母が、突然僕を呼んでこう言いました。「今日からもうおもちゃは買ってあげません！」 僕はびっくりしました。(えっ、どういうこと?)　母は続けました。「欲しかったら、自分でつくりなさい!」 母は、手づくりおもちゃのつくり方が書かれた本を僕に差し出しました。「材料や道具はお父さんが用意してくれるから」 臆病で、友だちと外で遊ぶこともあまりしなかった性格だった僕が、科学や機械に強い興味を示すのを見ていろいろ考えたのでしょう。いきなりの宣言に最初は面食らったものの、母の本気の表情を見て、渋々従いました。 父は週末になるとおもちゃづくりを手伝ってくれました。のこぎりを使うような難しい加工を代わりにやってくれたり、足りない材料や部品があれば一緒に探しに行ってくれ、何でも相談に乗ってくれました。徐々に、僕はおもちゃづくりが楽しくなつてのめりこんでいきました。母の計略にすっかりはまったのです。  『工作ブック』とパラパラマンガ それからしばらくして僕が書きはじめた『工作ブック』というノートがあります。 『工作ブック』には、最初NHKのテレビ番組で紹介された工作や実験のことを書き写していました。当時は今と違って、番組を録画したり、ネットで調べたりということができません。テレビを見ながら、その場で一生懸命メモするしかありませんでした。でもそのおかげで、見たものをさっと描いたり、構造を記憶したりするのが得意になりました。 そのうち、他人が考えたものを書き写すだけでは物足りなくなり、自分のアイデアも書き留めるようになっていきました。今見ると、とても実用にならない笑えるようなアイデアばかりですが、アイデアを考え、絵に描くことが面白かったのです。実際につくったものには、赤い「済」というマークをつけました。 当時もうひとつ、僕が夢中になったものがありました。それはパラパラマンガです。 僕が生まれた翌年の昭和38年は、日本初のテレビアニメ『鉄腕アトム』の放映が始まった年です。わが家では新し物好きの父が近所より早くテレビを購入したそうで、僕はアトムをはじめとするテレビアニメとともに育ちました。	ある時、雑誌の付録でパラパラマンガというものを初めて見た僕は目を見張りました。本の片隅に描かれた絵が、パラパラッとページをめくるだけで動き出したのです。これなら大好きなアニメが自分でもつくれそうだ。僕は先生の目を盗んで学校のノートや教科書に、次々と自作のパラパラマンガを描いていきました。僕のパラパラマンガは、クラスで評判になりました。 その頃は、学校の成績もかなりよくなっていました。また同級生の間で、僕のつくる工作やパラパラマンガが面白いと認められ、自信が持てるようになって、臆病で内向的な性格も少しずつ変わっていったのです。 コンピュータとの出会い 大学では、僕はその後の僕の人生を変えてしまう二つの重要なものと出会いました。その一つはアニメーションであり、もうひとつはコンピュータでした。 今、これだけ世の中にコンピュータが普及している状況からすると、まったく想像できないと思うのですが、僕が大学に入った1980年代初めは、まだ個人でコンピュータを持っている人はほとんどいない時代でした。マックやウィンドウズはおろか、パソコン自体がなかった時代です。それでも筑波大学では、未来に向けて早くからコンピュータ教育を取り入れようとしていました。僕のような芸術専攻の学生も、1年生のうちに全員がコンピュータの授業を受けさせられました。 芸術系のコンピュータの授業、というと今ならフォトショップやイラストレーターを使ったグラフィック制作を想像するかもしれませんが、とんでもありません。当時のコンピュータのディスプレイは緑一色で、表示できるのは文字のみ、プリンターも英数字とカタカナしか印刷できません。今から考えると原始的なものでした。また、現在のようにいろいろなアプリケーション也没有せん。コンピュータを動かしたければ、自分でプログラムを入力してソフトウェアを自作するしかないので。そんな環境で、芸術系の学生にコンピュータの授業をしようというのですから、先生も頭を悩ませたろうと思います。 この授業で生まれて初めてコンピュータに触った僕は、その不思議な面白さにのめりこみました。もともと機械好きで、高校時代は理系クラスにいた僕にとって、コンピュータという機械に命令することが、とても面白く感じました。その時、アニメーションに夢中になっていた僕は、すぐにこのコンピュータを使ってアニメーション作品がつくれなか考え始めました。しかしそれには、一枚一枚プリンターで印刷するしかありません。 僕は、アニメーションの動画を描くためのプログラムをつくり始めました。3,000枚以上の絵を印刷することになり、三学期が終わって春休みになっても作業は終わらず、大学に毎日通いつめて朝から晩まで印刷を続けました。プリンターを占有しすぎて他の学生から苦情を言われましたが、春休みが終わると1年生はコンピュータを使える資格がなくなってしまうことがわかったので必死でした。結局、ぎりぎりになってなんとか作品は完成しました。 子どもの悩みが絵本のアイデアに 『100かいだてのいえ』は、僕にとって初めての本格的な描き下ろし絵本でした。僕が書いた子育てエッセイを読んだ児童書の老舗出版社、偕成社の編集者の方から「絵本を描いてみませんか?」とのお誘いがあり、昔から絵本に興味があった僕は、喜んで引き受けまし

た。娘が生まれ、子育てにも熱心に取り組み始めていたので、子どものために何かしたいという気持ちもありました。 ただ実のところ、その時点では、最終的に物語性があり、手描きで細かい絵を描くような絵本になるとはまったく予想していませんでした。ストーリーにも絵にも自信がなかったので、ある種、アイデアで乗り切ろうかな、と気軽に考えていたのです。 そんな頃、僕の長女が算数で困っていることを知ったのです。僕の長女は、当時小学1年生。習い始めた算数でつまずいていました。 1、2、3と数えていって、11、12、13くらいまでは一氣に言えるのですが、その先がうまく数えられないのです。聞いていると、19から20へ、29から30へと、数が繰り上がる仕組みがわかっていないようでした。それを知り、(これで絵本ができるかも!) と、ひらめきました。 本は、開くと必ず左右対称の形をしています。ページを何度めくっても形は一緒です。この繰り返しが、数字の構造にうまく当てはまるのではないか、と思いました。左右のページにそれぞれ5個の何かを描いて1見開きで10をあらわし、それが10回繰り返されると100になるような絵本をつくったら、数の繰り上がりりの構造が感覚的に飲み込めるのではないのでしょうか。ページ数も、絵本にぴったり合いそうです。 それでは、いったい何を描いたらいいでしょう? リンゴやミカンなどを描いてもありきたりです。それに、ページをめくるうちに、だんだんと大きな数になることを実感させたい、とも思いました。 数とともに大きくなるものは……考えるうちに思いついたのが「建物」でした。部屋が積み重なって高くなっていくのは面白そうです。 その時、(そうだ! 絵本を縦開きにしてみたら?)とひらめきました。高さを表現するのに、横開きでは迫力が出ません。僕自身、縦に開く絵本を見た記憶がなかったので、これは新しい絵本が出来るかも、と直感しました。	いく可能性がある世界です。ハイテクメディアも面白いけれど、絵本の世界はなんて素晴らしいんだと僕は思っています。(文責:穴澤秀隆)
第1日　研究発表①　14:45～16:45 ■会場A　S517教室　座長:藤本朝巳、山本美希 ①難民絵本の収集・整理とその特徴 ～難民絵本研究1～ 前田君江(東京大学)、當銘美菜(目白大学) ②難民絵本の教材としての可能性 ～難民絵本研究2～ 山西優二(早稲田大学)、小野寺美奈(東京家政大学) ③ロシアで発行された「おおきなかぶ」絵本　ー1960年までの出版を中心に丸尾美保(梅花女子大学) ④韓国昔話絵本『金剛山のトラ』における登場人物の分析と家庭文庫の場との関係　ーグレアスの行為項分析を中心に いんへん 尹 惠貞(一橋大学大学院博士後期課程)	S517教室では、〈難民絵本〉と〈昔話絵本〉をキーワードとして、研究発表が行われた。前田君江氏、當銘美菜氏は、難民絵本研究として、収集・整理とその特徴をテーマにして発表された。山西優二氏と小野寺美奈氏は、同じく、難民絵本研究として、教材としての可能性をテーマにして発表された。 昨年度の大会では、ジェンダーをテーマとして発表が行われ、今年はまた、新しい対象での発表があり、大変意義のある内容であった。発表者には、難民支援、国際協力という使命感もあり、貴重な発表であった。 丸尾美保氏は、「ロシアで発行された「おおきなかぶ」絵本ー1960年までの出版を中心に」と題して発表された。氏の長年の資料収集、分析、整理の行き届いた発表であった。今後のまとめ・発表を待ち望みたい。 尹 惠貞氏は、「韓国昔話絵本『金剛山のトラ』における登場人物の分析と家庭文庫の場との関係ーグレアスの行為項分析を中心に」と題して発表された。絵本研究に構造分析を用いる手法は、まだ十分な取り組みがなされているとはいえず、氏の研究は今後ますます必要となる視点であり、研究の深化をおおいに期待したい。 以上、簡潔であるが、当日の様子を報告した。研究発表は、毎年、他分野との関連を掛け、交流もますます盛んになってきている。この教室では、どの発表も、大変にユニークで、活発な質疑応答もあり、有意義な発表の場であった。(文責:藤本朝巳)
■会場B　S518教室　座長:澤田精一、笹本純 ①絵本の基材と表現　ー駒形克己の絵本作品を例として 養田もえ(日本女子大学) ②光吉夏弥による児童書翻訳　ー蔵書整理カードに着目して 生駒幸子(龍谷大学短期大学部) ③酒井駒子の「黒」について実験・考察する 宮崎詞美(横浜美術大学)	養田もえ、生駒幸子、宮崎詞美、以上三人の研究者が、それぞれ駒形克己、光吉夏弥、酒井駒子について発表をおこなった。駒形克己については使用している紙を検討し、光吉夏弥については作家秘蔵の

データカードを取りあげ、酒井駒子については絵本表現にある「黒」に注目、色だけでなく塗り方、画材など作品ごとにその「黒」の有り様を追ったものだった。 従来の作家研究はデビュー作から順に年代を追いながらテーマや作品世界の変遷を追うものが多かったが、ここでは意図的に対象を限定して、その対象を精査することでそのことが作家活動とどのように関わっているかを追求したものだっ。今までにない研究発表といえる。いずれもこの手応え、それは聞き手にも感じられるものだったが、それを挺にして更なる研究に進んでもらいたい。そう思わせる研究発表だった。 (文責：澤田精一) ■会場C S519教室 座長：攪上久子、水間千恵 ①絵本の戻し訳による日本語学習の試み ーベトナム語版『おつきさま こんばんは』を用いて 小松麻美 (蔚山大学) ②聴覚障害児に絵本を楽しんでもらうために ー手話を交えた絵本読み聞かせ普及に向けて(1) 玉井智子 (今治明德短期大学) ③子育て支援施設での実践的演習を通した絵本の「人と人をつなぐ力」の考察 児玉茜 (金城学院大学KIDSセンター) ④絵本の読み方指導を問い直す ～脳反応の変化を手掛かりにして 森慶子 (徳島大学) S519教室では、絵本研究の新しい息吹を感じる内容の発表がなされた。小松氏は、外国語訳の『おつきさま こんばんは』を使い、日本語への戻し訳を読み比べる対話型授業による日本語習得をめざす、学習教材としての絵本の新たな可能性を提案された。 玉井氏は、継続して取り組んでいる聴覚障害児への、手話を交えた読みきかせ研究の一環として、教員アンケートをもとに、どのようなガイド作成が絵本の楽しさを子どもに手渡すための教員への一助になるかを発表された。 児玉氏は、大学演習授業での、年毎に内容に工夫を重ね取り組んだ3年間の支援施設での乳児への絵本製作を通し、思いや楽しさを分かち合うことが、学生一親一子、さらにはその周囲の人のつながりも産み出す絵本の力を考察し、発表された。 森氏は、絵本の読み方(淡々読みと自由読み)の違いによる読み手と聞き手の心理的負荷を、脳反応測定値という可視化できるデータで考察し、絵本の読み方への問題提起をされた。 4つの研究発表とも研究の着眼点への注目や評価が高く、今後の研究継続や発展が期待される。 (文責：攪上久子) ■会場D S520教室 座長：生田美秋、永田桂子 ①「あかし保育絵本土」養成の試み ～どう教えどう学んだか(1) 佐々木宏子 (鳴門教育大学名誉教授)、山畑幸子 (明石市政策局政策室)、村中李衣 (ノートルダム清心女子大学)、徳永満里 (おさなご保育園) ②「あかし保育絵本土」養成の試み ～どう教えどう学んだか(2) 村中李衣 (ノートルダム清心女子大学)、徳永満里 (おさなご保育園)、佐々木宏子 (鳴門教育大学名誉教授)、山畑幸子 (明石市政策局政策室) (文責：今田由香)	③島多代が遺した言葉と蒐集絵本の研究1 ー島多代の著述にみる絵本蒐集の背景について 上野直子 (ロシアの絵本カランダーシ)、みつじまちこ (東京子ども図書館 /かつら文庫)、島多代コレクション研究会 (今井良朗、前沢明枝、山下彩華) 「あかし保育絵本土」養成の試み～どう教えどう学んだか(1)(2)は、明石市の保育者を対象とした絵本講座の報告である。講座はブックスタートの理念を継承し、絵本をツールとした保育の質の向上をめざしている。 7回の講座は絵本を選ぶ、読む力・読み合う力、分析・省察し記録する力からなる。絵本の選書や読み合いは“正しい”原理や子どもの“あるべき発達観”に当てはめるのではなく、子どもたちとの読み合いの中で、保育者が自らの経験を生かしながら考えていくべきであると主張する。 絵本は保育の質の向上にとって有効なツールである。同時に「読みっぱなし」によって子どもたちに絵本を届ける本来の意義をどう考えればいいのか。 「島多代が遺した言葉と蒐集絵本の研究1」は、JBBY会長、編集者、研究者として活躍した島多代の遺した言葉から窺える思想と、蒐集した1920年以降の絵本コレクションの意義を明らかにし、絵本史研究の空白を埋めようとする意欲的な報告であった。 (文責：生田美秋) 第2日 研究発表② 9:30～11:30 ■会場A S517教室 座長：今田由香、石井光恵 ①あべ弘士による宮沢賢治の詩「旭川。」の絵本化について 横田由紀子 (札幌大谷大学短期大学部) ②かこさとの科学絵本10巻シリーズ(8作品)を考える ー子どもの科学への気づきを生む 宮川晴美 (日本女子大学修士課程) ③不在の対象との内的対話の受け皿になる：『百まいのドレス』から 田中健夫 (東京女子大学) 着眼点も方法も異なる三つの研究発表がなされた。横田氏は、あべ弘士作『宮沢賢治「旭川。」より』の制作過程や作家の発言を丁寧に調べ、本作が「旭川」と動物を良く知る作家ならではのアプローチであることを明らかにした。それを受けて会場からは、鳥や昆虫の選び方や構成の意図についても考察を期待する声があった。 宮川氏は、かこさとの科学絵本シリーズを分類し、実に多彩な内容が扱われたことを示した。では内容はいかに表現されたのかの点について、参加者からさらなる研究を求める指摘がなされた。 田中氏は、臨床心理学的な観点から、エスティス作スロボドキン絵の『百まいのドレス』における「読者」の位置について検討を試みた結果を発表した。絵本研究に新しい視座をもたらす内容と思われたが、短い時間では理解が難しい部分があった。ぜひ論文にまとめていただきたい。 以上のようにA室では、創造的かつ真摯に取り組まれた研究の過程や成果が発表され、多様なレベルの質疑が活発に交わされた。

■会場B S518教室 座長：丸尾美保、甲木善久 ①辻村秋峯の絵本観と絵本製作の取り組み ー幼年絵本への視点を探る 永田桂子 (京都女子大学) ②主体的・対話的で深い学びの視点で実施する小学校外国語活動で活用する英語絵本についての考察 松本由美 (玉川大学) ③小学校図書ボランティア活動「多言語読み聞かせ」の一考察 ーグローバルに触れる機会としての取り組み 長谷川美和 (神戸女子短期大学) ④ジョン・バーニンガム『いっしょに きしゃに のせてって!』の環境学習効果 三好伸子 (甲南女子大学) 会場Bでは、教育も含めて子どものための文化活動と絵本についての発表が行われた。 永田桂子氏は「辻村秋峯の絵本観と絵本製作の取り組みー幼年絵本への視点を探る」と題して、資料をもとに日本で最初の絵雑誌『お伽絵解こども』を創刊した辻村の児童文化への想いと実践について発表された。 松本由美氏は、「主体的・対話的で深い学びの視点で実施する小学校外国語活動で活用する英語絵本についての考察」と題して発表され、テーマにふさわしいと考える絵本と生徒の学びについても紹介された。 長谷川美和氏は、「小学校図書ボランティア活動『多言語読み聞かせ』の一考察ーグローバルに触れる機会としての取り組み」をテーマに、保護者の協力により5力国語で『はらぺこあおむし』を読んだ活動とその成果について発表された。 三好伸子氏は「ジョン・バーニンガム『いっしょに きしゃに のせてって!』の環境学習効果」をテーマに、作者の環境保護の想いと、読み合いの参加者の読み取りについて発表された。 プロジェクターの操作に手間取る場面もあったが、会場との意見交換が活発になされて、研究の新たな展開も予想される、充実した研究発表であった。 (文責：丸尾美保) ■会場C S519教室 座長：佐々木由美子、長野麻子 ①絵本から広がる保育の可能性を探る 野中千都 (中村学園大学) ②子どもたちと絵本を読むということ ーメルロ＝ポンティとともに考える 正置友子 (絵本学研究所) ③絵本から思考力と表現力を考える ー「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から 金子亜弥 (埼玉東萌短期大学) ④ディック・ブルーナ作「うさこちゃん」シリーズの日本における受容 村川京子 (大阪人間科学大学) 当会場での4つの研究発表はいずれも有意義な議論を提供した。野中氏と金子氏は両氏とも保育者養成の立場から、保育における絵本の活用について工夫を凝らした授業報告を交えながら、絵本を介した子どもの育ちの可能性を問うた。両発表とも平成30年施行の新「保育所保育指針」および「幼稚園教育要領」に照らし合わせた内容であり、注目が集まる中で、制度にとらわれすぎない絵本の活用が望	ましいことが発表者と会場の間で一致した。 正置氏は氏の45年におよぶ文庫活動の経験に基づく著書を軸に、子どもが絵本と出会い、絵本を読むまたは読んでもらうことの意味について、メルロ＝ポンティの現象学を引き合いに解釈を試みた。発表内容は多くの示唆に富むが、メルロ＝ポンティへの予備知識なしには論旨が分かりづらく、より簡潔に説明する必要があったと思われる。 村川氏はブルーナの「うさこちゃん」シリーズをめぐり、その出版事情から日本では「うさこちゃん」と「ミッフィー」の2つの異なる呼称が混在することを始め、本シリーズの受容に関する問題点を提起した。質疑応答では元福音館編集者である澤田絵本学会会長の貴重な証言が飛び出すなど、活発な意見の交換が行われた。 (文責：長野麻子) 第2日 作品発表 11:40～12:40 ■会場：S82(図工室)教室 座長：和田直人 ●『おや、まあ』 さねよしあきこ (實吉明子) (湘北短期大学保育学科教員) ●『王様の服は世界一』(はだかの王様) ベップ ヒロミ (別府浩実) (貞静学園短期大学教員) ●『リンビニー』他数点 望月富美子 (おおしま手作り絵本クラブ) ●『ぐるぐる Happy Days!』 加賀美裕子 (東京展「絵本の部屋」代表) 實吉氏は、布と糸を用いた刺繍の原画を印刷した作品を発表した。視点の違いによる見え方の面白さを表現し、鉛筆・長靴・傘の「形」の変化を描きながら、晴天から雨、そして虹の広がる世界を作り出した。 ベップ氏は、朗読劇という視点から絵本を表現した。製本された絵本の他に紙芝居にしたもの、さらに映像を活用した例を紹介し、朗読に合わせた効果的な提示の仕方を発表した。 望月氏は、3歳の櫻子ちゃんの初めての絵本作りを紹介した。幼児の表現力の成長に手作り絵本が効果的であり、さらにコミュニケーションを育む良い場となったことを発表した。 加賀美氏は、臨床アート「ぐるぐるうずまき技法」を用いた絵本を発表した。うずまき曲線から小学4年生が喜びと驚きを自由に表現した手作り絵本を紹介し、絵が苦手でも絵本作りを楽しむことができることを示した。 4件の発表は、「手作り絵本」が秘めている可能性をそれぞれが提起した意義ある発表であったように思う。 (文責：和田直人)

絵本学会 第22回定期総会	
日 時:2019年6月1日(土) 17:40～18:10 場 所:帝京大学八王子キャンパス 議 長:生田美秋 書 記: 藤本朝巳 会員出席:69名 委任状提出者:136名 計 205名で総会成立	
17:40 開会	
1. 開会の辞	
2. 議長・書紀の選出 議長:生田理事、書紀:藤本理事を選出。	
3. 会長挨拶 澤田会長より挨拶があった。	
4. 2018年度 活動報告 資料に基づき説明の上、承認。	
5. 2018年度 決算・会計監査報告 決算報告書に基づき説明。香曽我部監事より、「適正と認める」との報告があり、承認。	
6. 2019年度 活動計画について 資料に基づき説明。 ・「日本絵本研究賞」については、「2019年度には第4回日本絵研究賞の募集を行わず、賞のあり方について見直しを行うことにした。」と提案があり、複数の質問があった。 〔主な質問〕 ※募集を行わない理由は？ ⇒集まりが少ない。集まったものが、必ずしも期待した質のものではなかった。その点、ふさわしい賞のあり方を、理事会で1年かけて検討したいから。 ※日本絵研究賞をやめることもあり得るのか？ ⇒やめることもあり得る。最終的には、特別委員会で審議し、理事会で決定する。 ※この企画は、長い協議を経て実施したことであり、できれば継続して欲しい。委員会としては、すべてやったとはいえないが、かなり努力をしてきた。 ※応募条件として、すでに発表された論文だけではなく、未発表の論文も受け付けるということも考えられるのではないかと？ ⇒特別委員会で審議し、理事会に諮る。日程的には厳しいが、2020年度の総会前には中止か、あるいは2020年度から実施するか、間に合うようにしたい。 その他の項目については、資料に基づき説明の上、承認。	
7. 2019年度 予算案について 予算案に基づき説明の上、承認。	
8. 会則の変更について ・絵本学会会則変更 会員資格停止、除籍に関する年数を変更する。 〔現行〕(平成26年5月31日から実施される。) 絵本学会会則 ■第11条(入会、会費、資格停止、退会、除籍) 3. 資格停止 会費未納が2年を超えた者は、会員資格が停止される。会費未納が3年未満であり、且つ、未納の会費が納入された場合には、その時点から再び会員として扱われる。 5. 除籍 会費未納が3年を超えた者は、除籍する。 〔変更〕 ■第11条(入会、会費、資格停止、退会、除籍) 3. 資格停止 会費未納が1年を超えた者は、会員資格が停止される。会費未納が2年未満であり、且つ、未納の会費が納入された場合には、その時点から再び会員として扱われる。 5. 除籍 会費未納が2年を超えた者は、除籍する。 以上、賛成多数で承認。	
9. その他の項目について ・意見 他学会との連携について、積極的に推進、実施する要望があった。 ⇒理事会で検討する。 ・2020年度の 第23回絵本学会大会 2020年6月6日(土)～7日(日) 開催場所:熊本県南阿蘇 テーマ(仮):大自然と絵本 メイン講師:柳田邦男氏の予定	
10. 質疑応答 特になし。	
11. 閉会の辞 会長より、今大会への謝辞が述べられ、閉会の挨拶があった。	
18:10 閉会	

絵本学会 財産目録		2019年3月31日現在			
	項 目	一般会計	20 周年積立金	合 計	備 考
2018/4/27	手元有高	88,372		88,372	
	りそな銀行	0		0	
	ゆうちょ銀行	776,713		776,713	
	郵便局	500,000	1,500,000	2,000,000	
	振替口座	486,320		486,320	
	未収金	25,640		25,640	広報委員会活動費残金
	仮払金	400,000		400,000	
	計 ①	2,277,045	1,500,000	3,777,045	
2019/3/31	1 年後の増減 ②	△ 1,602,093	0	△ 1,602,093	
	結果 ①+② ③	674,952	1,500,000	2,174,952	
③の内訳					
	手元有高	101,729			
	りそな銀行	0			
	ゆうちょ銀行	98,505			
	郵便局	0	1,500,000		
	振替口座	74,718			
	未収金	0			
	仮払金	400,000			
	定期貯金		1,500,000		
	計 ④	674,952	1,500,000	2,174,952	
		収支計算書の 次期繰越差額		財産目録の 次年度繰越金	

2018年度決算報告				
2018年4月27日～2019年3月31日				
科 目	予算額	決算額	増減(予－決)	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	3,830,000	3,580,000	250,000	
賛助会員	180,000	160,000	20,000	20,000×8口（現在10団体）
正会員	3,600,000	3,362,000	238,000	8,000×386名（現在約485名）
準会員	50,000	58,000	-8,000	準会員 14名
②事業収入	400,000	497,000	-97,000	
研究活動事業収入	0	110,000	-110,000	
フォーラム収入	0	65,000	-65,000	入場者収入（500円×28）、(1,000円×51)
研究会収入	0	45,000	-45,000	参加費収入（90人分）
出版事業収入	400,000	387,000	13,000	
③雑収入	130,100	153,481	-23,381	
受取利息収入	100	12,897	-12,797	
入会金収入	80,000	84,000	-4,000	入会金 2,000×42名
雑収入	50,000	56,584	-6,584	出版物在庫販売
事業活動収入合計	4,360,100	4,230,481	129,619	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	2,630,000	2,674,354	-44,354	
人件費支出	400,000	400,000	0	
事務局報酬支出	400,000	400,000	0	事務局賃金等
事業費支出	2,230,000	2,274,354	-44,354	
消耗品費支出	80,000	57,152	22,848	事務消耗品費
印刷製本費支出	870,000	1,164,658	-294,658	
絵本学会ニュース	200,000	158,842	41,158	絵本学会 NEWS 61,62,63号
研究紀要	550,000	917,436	-367,436	紀要制作費（20号, 21号分）
会員名簿	20,000	0	20,000	
その他	100,000	88,380	11,620	封筒印刷代、払込書印字代
通信運搬費支出	800,000	473,824	326,176	NEWS等発送費・通信費
旅費交通費支出	250,000	498,356	-248,356	理事旅費等（理事会4回／年）
会議費支出	10,000	0	10,000	
広告費支出	110,000	30,000	80,000	
印刷物制作費支出	50,000	0	50,000	
HP 更新作業費支出	60,000	30,000	30,000	
振込手数料	10,000	8,740	1,260	
雑支出	100,000	41,624	58,376	絵本学会大会労賃、発送作業など
②活動費支出	1,500,000	1,655,338	-155,338	
大会運営補助金支出	400,000	487,978	-87,978	ポスター等制作費を含む
第21回絵本学会大会補助金	400,000	487,978	-87,978	
専門委員会活動費支出	950,000	1,017,361	-67,361	
企画委員会	200,000	199,661	339	フォーラム等
紀要編集委員会	100,000	99,951	49	紀要編集等
機関誌編集委員会	80,000	79,869	131	『絵本BOOK END』編集
研究委員会	100,000	141,505	-41,505	研究会主催
広報委員会	120,000	113,712	6,288	『絵本学会NEWS』編集
特別委員会	350,000	382,663	-32,663	
研究助成費支出	150,000	149,999	1	
③出版事業支出	1,530,000	1,364,904	165,096	『絵本BOOK END 2018』
編集作業費支出	30,000	0	30,000	
制作費支出	1,500,000	1,364,904	135,096	
事業活動支出合計	5,660,000	5,694,596	-34,596	
事業活動収支差額	-1,299,900	-1,464,115	164,215	

科 目	予算額	決算額	増減(予－決)	備 考
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動の部				
1. 財務活動収入				
長期借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
長期借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
	200,000	137,978	62,022	第1回日本絵本研究賞賞金 大会補助金の補填費
当期収支差額	-1,499,900	-1,602,093	102,193	
前期繰越収支差額	2,277,045	2,277,045	0	
次期繰越収支差額	777,145	674,952	102,193	

2019年度収支予算(案)				
2019年4月1日～2020年3月31日				
科 目	予算額	前年予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	3,640,000	3,830,000	-190,000	
賛助会員	180,000	180,000	0	20,000×9口（現在9団体）
正会員	3,400,000	3,600,000	-200,000	8,000×425名（現在約485名）
準会員	60,000	50,000	10,000	準会員15名
②事業収入	420,000	400,000	20,000	
研究活動事業収入	0	0	0	
フォーラム収入	20,000	0	20,000	入場者収入
研究会収入	0	0	0	参加費収入
出版事業収入	400,000	400,000	0	『絵本BOOK END』売上
③雑収入	130,100	130,100	0	
受取利息収入	100	100	0	
入会金収入	80,000	80,000	0	入会金2,000×40名
雑収入	50,000	50,000	0	出版物在庫販売
事業活動収入合計	4,190,100	4,360,100	-170,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	2,370,000	2,630,000	-260,000	
人件費支出	400,000	400,000	0	
事務局報酬支出	400,000	400,000	0	事務局賃金等
事業費支出	1,970,000	2,230,000	-260,000	
消耗品費支出	50,000	80,000	-30,000	事務消耗品費
印刷製本費支出	710,000	870,000	-160,000	
絵本学会ニュース	170,000	200,000	-30,000	絵本学会 NEWS 64,65,66号
研究紀要	450,000	550,000	-100,000	『絵本学』22号
会員名簿	0	20,000	-20,000	
その他	90,000	100,000	-10,000	封筒印刷代、払込書印字代
通信運搬費支出	500,000	800,000	-300,000	NEWS等発送費・通信費
旅費交通費支出	500,000	250,000	250,000	理事旅費等（理事会4回/年）
会議費支出	0	10,000	-10,000	
広告費支出	120,000	110,000	10,000	
印刷物制作費支出	0	50,000	-50,000	
HP更新作業費支出	120,000	60,000	60,000	
振込手数料	10,000	10,000	0	
雑支出	80,000	100,000	-20,000	発送作業労賃等
②活動費支出	1,110,000	1,500,000	-390,000	
大会運営補助金支出	400,000	400,000	0	ポスター等制作費を含む
第23回絵本学会大会補助金	400,000	400,000	0	
専門委員会活動費支出	560,000	950,000	-390,000	
企画委員会	170,000	200,000	-30,000	フォーラム等
紀要編集委員会	100,000	100,000	0	紀要編集等
機関誌編集委員会	70,000	80,000	-10,000	『絵本BOOK END』編集
研究委員会	80,000	100,000	-20,000	研究会主催
広報委員会	110,000	120,000	-10,000	『絵本学会 NEWS』編集
特別委員会	30,000	350,000	-320,000	日本絵本研究賞の検討
研究助成費支出	150,000	150,000	0	
③出版事業支出	1,300,000	1,530,000	-230,000	『絵本BOOK END 2019』
編集作業費支出	0	30,000	-30,000	
制作費支出	1,300,000	1,500,000	-200,000	
事業活動支出合計	4,780,000	5,660,000	-880,000	
事業活動収支差額	-589,900	-1,299,900	710,000	

科 目	予算額	前年予算額	増 減	備 考
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動の部				
1. 財務活動収入				
長期借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
長期借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
	200,000	200,000	0	
当期収支差額	-789,900	-1,499,900	710,000	
前期繰越収支差額	674,952	2,277,045	-1,602,093	
次期繰越収支差額	-114,948	777,145	-892,093	

2018年度活動報告 ◎第21回絵本学会大会の開催 2018年6月2日(土)、3日(日) 札幌大谷大学短期大学部 テーマ:「多様化する絵本」 参加者:会員106名、一般87名、学生21名、計214名 ◎企画委員会の活動 ・会員アンケートの実施 ・意見交換会「絵本学会voice vol.0」の開催 2018年9月8日(土) 日本女子大学 参加者:会員14名、一般20名、計34名 ・絵本フォーラムの開催 2019年3月2日(土) 鎌倉 稲村ガ崎 giogio factory テーマ:「人生は回り舞台ーささめやゆきの幻燈紙芝居」 参加者:53名 ◎紀要編集委員会の活動 ・絵本学会研究紀要『絵本学』第20号の刊行(前理事会担当分) ・絵本学会研究紀要『絵本学』第21号の刊行 ・2018年度絵本研究参考文献目録(2018年1月～12月発行分)の作成 ・2018年度絵本原画展・絵本画家展リスト(2018年1月～12月開催分)の作成 ◎機関誌編集委員会の活動 ・機関誌『絵本BOOK END 2018』の刊行 ◎研究委員会の活動 ・絵本セミナーの開催 2018年11月18日(日) 奈良県立美術館 テーマ:「BIBと絵本制作の舞台裏」 参加者:会員19名、一般91名、計110名 ・絵本研究助成(3件、各5万円) 「聴覚障害児に絵本を楽しんでもらうためにー ー手話をまじえた絵本読み普及に向けた実践研究ー」 (申請者:玉井智子/協力:愛媛県手話通訳士会) 「島多代が遺した言葉と蒐集絵本の研究」 (申請者:代表・前沢明枝/ 共同研究者:今井良朗、上野直子、みつじまちこ、山下彩華) 「絵本の読み方の相違による脳反応の変化ー ー読み手と聞き手の相互作用についてー」 (申請者:代表・森慶子/共同研究者:村中李衣) ◎広報委員会の活動 ・『絵本学会NEWS』の発行 61号(2018年7月31日)、62号(2018年11月30日)、 63号(2019年3月30日) ・ホームページの管理、運営の移行 ・メールニュースの配信	◎日本絵本研究賞の運営活動 ・第3回日本絵本研究賞の募集、選考を行い、日本絵本研究賞および奨励賞はともに該当者なしと決定。 ・2019年度には第4回日本絵本研究賞の募集を行わず、賞のあり方について見直しを行うことに決定した。 ◎「フォーラム・子どもたちの未来のために」の活動報告 (絵本学会は構成7団体の一つ) ・「いわさきちひろ生誕100年記念」 「ちひろが描いた戦争と平和」 講 師:松本 猛(ちひろ美術館常任顧問) 日 時:2018年7月19日、19:00～20:30 会 場:文京区シビックセンター(小ホール) ・連続講座「いま、この国のメディアを考える」 【第1回 新聞は権力とどう戦うか?】 講 師:望月衣塑子(東京新聞記者) 日 時:2018年11月27日、19:00～21:00 会 場:専修大学5号館 ・連続講座「いま、この国のメディアを考える」 【第2回 TVキャスターが見た日本の政治】 講 師:金平茂紀(ニュースキャスター) 日 時:2018年12月4日、19:00～21:00 会 場:専修大学5号館 ・「沖縄ジャーナリズムから考える基地問題と日米地位協定ー ー辺野古埋め立てはなぜ強行され続けるのかー」 講 師:山田健太(専修大学教授) 日 時:2019年3月25日、19:00～21:00 会 場:専修大学1号館 ◎他学会等との連携 日本児童文学学会、日本イギリス児童文学会、日本マンガ学会等との連携推進。 ◎絵本学会事務局の移転 東京工芸大学(陶山恵事務局長)より、刈谷市美術館(松本育子事務局長)へ、学会事務局を移転。 ◎入退会 2018年度新入会者 42名 退会者 11名(第5回理事会2019年3月3日段階)

2019年度活動計画 ◎第22回絵本学会大会の開催 2019年6月1日(土)、2日(日) 帝京大学八王子キャンパス(東京都八王子市) テーマ:絵本と教育 ーメディアとしての絵本、その魅力と多様性を探るー ◎企画委員会の活動 ・絵本フォーラム等の開催 ◎紀要編集委員会の活動 ・絵本学会研究紀要『絵本学』第22号の刊行 ・2019年度絵本研究参考文献目録(2019年1月～12月発行分)の作成 ・2019年度絵本原画展・絵本画家展リスト(2019年1月～12月開催分)の作成 ◎機関誌編集委員会の活動 ・機関誌『絵本BOOK END 2019』の刊行 ・バックナンバーの販売促進 ◎研究委員会の活動 ・研究会の開催 ・絵本研究助成 ◎広報委員会の活動 ・『絵本学会NEWS』の発行 年3回の予定 ・ホームページの管理 ・メールニュースの配信 ◎特別委員会の活動 ・第4回日本絵本研究賞の運営検討 ◎「フォーラム・子どもたちの未来のために」の活動 (絵本学会は構成7団体の一つ) ◎日本学術会議協力学術研究団体への絵本学会の登録申請 ◎他学会等との連携 ◎その他	第4回日本絵本研究賞のお知らせ ◎2019年度 第4回「日本絵本研究賞」募集中止について 2019年度第22回絵本学会定期総会(6月1日(土)、帝京大学)での決定の通り、2019年度は第4回「日本絵本研究賞」の募集を行わず、賞のあり方について見直しを行うことに決定いたしました。 賞のあり方について、見直しに至った主な理由は以下の通りです。 1. 2018年度の第3回「日本絵本研究賞」の募集に際しては、募集チラシの配布を大幅に増やして賞の周知に努めるなど応募者数の改善に向けた対策を講じたにも関わらず、応募数4人、5編という結果に終わったこと。 2. 第3回の応募作品の審査に際して、選考委員より論文の質について厳しい意見が提出されたこと。 見直し案の検討には、以上の点をふまえ、以下の3点に留意して日本絵本研究賞特別委員会に於いて「素案」を作成いたします。 1. 絵本に関する学術研究の推進を牽引する質の高い論文または著作が選考対象となるよう、募集要項の改正を含めて検討を行う。 2. 若い研究者の意欲的な論文の奨励についても検討を行う。 3. 「日本絵本研究賞」の全国学校図書館協議会、毎日新聞社との共催のあり方、募集要項の見直し、選考方法、広報、経費の削減などを併せて検討を行う。 日本絵本研究賞特別委員会で以上の課題を整理した上で見直しの「素案」を作成し、会員の皆様のご意見をお聞きし、その上で理事会に諮り「改定案」を決定いたします。 日本絵本研究賞特別委員会 委員長 生田美秋 イラスト：井之口真央 

紀要編集委員会からのお知らせ	
◎絵本学会紀要『絵本学』第22号投稿論文募集について 前号でお知らせしたとおり、絵本学会紀要『絵本学』第22号への投稿論文を募集します。原稿は、必ず投稿規程および執筆要項にしたがって作成してください。執筆要項は絵本学会ウェブサイトからもダウンロードが可能です (http://www.ehongakkai.com)。応募原稿は絵本学会事務局宛てに郵送でお送りください。 応募締切は2019年9月30日(必着)です。 なお、投稿に際しては、下記の点に特にご注意ください。	
①文章量が守られているか ②二重投稿・盗用・剽窃に該当しないか ③推敲を重ねた完成原稿であるか(著者校正は最小限度とします)	
絵本学会研究紀要『絵本学』投稿規程 ◎投稿資格: 絵本学会会員および準会員 2019年8月31日までに会員資格を有していること。 ◎内 容: 絵本に関する研究論文、研究ノート、論説、報告で、未発表のもの。 【研究論文】研究の視点や手法、理論展開及び結論に独創性や説得力が高く認められるもの 【研究ノート】研究の基礎データになる資料、あるいは理論構築の可能性が認められるもの 【論 説】学術的な論で、注目すべき研究・作品・作家・展覧会・活動を取り上げての評論など 【報 告】活動紹介や文献紹介など	
●掲載採択: 査読に基づき、編集委員が掲載の採否を決定する。必要に応じて編集委員の外に査読委員を依頼する場合がある。採否判定の過程・理由は開示しない。ただし、投稿者は、結果について説明を求めることができる。この場合、編集委員会は申し出の内容を精査の上、適正範囲内で回答する。 ●執筆要項: 執筆は別に定める執筆要項に従うこと。 ●投稿締切: 2019年9月30日(必着) ●採択通知: 2019年12月15日までに投稿者へ通知する。 ●刊 行: 2019年度内 ●原稿送付先: 絵本学会事務局(郵送とする。FAX、電子メールなどによる送付は不可)	
<文章量についての注意> 絵本学会紀要『絵本学』へ投稿を希望される方は、執筆要項をよく読んで、原稿を作成して下さい。特に、文章量にはご注意ください。 絵本学会紀要『絵本学』は第1号以来、同じ書式で作成しています。現在の紀要のページ割では、註・引用文献・参考文献を含め、研究論文は8ページ、研究ノートは6ページ、論説と報告は4ページを原則とします。このうち、はじめの左半ページは、表題、執筆者名、専門分野、和文・英文抄録等の記載に使用します。本文は右半ページからはじめます。	

出版のお知らせ	
学会事務局に届いた会員の出版情報をお知らせいたします。	
1.サトウヒロシ 『明日死ぬかもしれないから今お伝えします』(KADOKAWA、2019年8月9日)	
	
大人向け絵本レーベル「絵本屋.com」(今井秀司さん運営)から電子書籍絵本として出版され、アマゾンで大ヒットした作品が書籍化されます。8月9日に全国書店で発売が決定しましたのでお知らせいたします。	
2.さかべひとみ 絵 クァク ヨンミ 文 『まえばがぐらぐら』(ヌリンポ、2018年5月)	
	
歯がぐらつき始める主人公ボミがお母さんとの関係において一歩成長する眩しい瞬間を描いた絵本です。	
3.さかべひとみ 絵 イジョンモ、ノジョンイム 文 『本づくり』(アジャ、2019年4月)	
	
本づくりに関するメタ絵本。着想から出版社での編集、印刷と製本までの過程について楽しく説明する知識絵本です。	
4.さかべひとみ 文・絵 『おばあちゃんち だいすき』(ウンヌントルゴレ、2019年7月)	
	
海辺のおばあちゃんの家で過ごす夏をテーマにした絵本です。	
*2~4は韓国での出版です。	

絵本学会 Who's who	
今号は、藤本朝巳絵本学会副会長について、フェリス女学院大学の教え子・中山美加さんが紹介してくれました。	
藤本朝巳副会長はこんな人	
中山美加	
私は藤本朝巳先生の教え子という立場で、先生の人となりや、エピソードを交えて紹介いたします。	
紹介の前に、私と藤本先生との関係について説明させてください。私は社会人学生としてフェリス女学院大学に入学しました。藤本先生の講義で児童文学の魅力に取りつかれた娘に刺激を受け、受験した次第です。娘が同じ大学の3年生、母親の私は1年生です。娘は大学卒業後に就職しましたが、私は児童文学という領域の学びが楽しくて、大学院に居座ってしまいました。	
さて、藤本先生は1999年に横浜のフェリス女学院大学文学部にご着任後、2001年からは大学院も担当され、多くの博士前期修了生及び博士号取得学生を育ててこられました。そして2019年3月に退職されました。	
藤本先生のお人柄を一口に申しますと一見静かな物腰で常に冷静沈着のイメージがございます。が、先生の研究になりますと、長い年月をかけられたイギリスのfairy taleの分析、また昔ばなしの再話の研究、これは先生のライフ・ワークになっています。このように、ご自身の研究に対し徹底して情熱を傾けてこられました。そして、福音館書店の初代編集長であった松居直氏への聞き取りは20年近くに及び、その内容は3巻の『松居 直』シリーズとして、また先生ご自身の著書『松居直と絵本づくり』として刊行され、日本の戦後絵本の制作・出版業に関する貴重な資料になっています。このような聞き取りという地道な作業を忍耐強く取り組まれる姿勢から、強靱な精神の持ち主といえます。私はこの聞き取りに数回同席するという貴重な機会をいただき、この経験は私の中でとても大切な宝物になっています。	
藤本先生は常に学生のことを思いやり、どの学生にも平等に研究や社会勉強の機会を与えてくださいました。恒例となっている夏のゼミ旅行では、学生の自主性を重視してくださり、全て学生の企画の中で、夜の勉強会を先生が担当されます。時には学生の移動のためのドライバーだったりも。また、夏休みを利用した児童文学の旅(これはイギリスとアメリカを毎年交互に作品や作家の生地を訪れるというフィールド・スタディ)では、先生は入念な計画を立て、事前勉強会を熱心に行ってくださいました。経験や思い出をどんどん増やすことができました。	
先生の研究室には学生が絶え間なく出入りして、必ずコーヒーや紅茶をふるまってくださいます。先生が奥様の手作り弁当を召し上がりながらの面会という状況は日常茶飯事で、私は何度も居合わせました。時間を問わず学生の相談に応じてくださる。そこには、お茶やお菓子で学生の緊張をほぐしてあげる、これも先生のお優しい心遣いなのだと感じました。面談後に研究室のドアを閉める時はなぜか視	

界が開けるというのでしょうか、その足で大学図書館へ直行するワクワク感になるのが不思議です。	
現在、藤本先生の研究テーマは「死生学」と伺っています。先生は近年の度重なる自然災害などで突然の「死」を経験した方々に寄り添い、児童文学を通して働きかけ、「死」と「再生」の意味を分かち合おうと努めておられます。その研究のため、この数年、福島などに通い、話し合いの中から、今、日本で「死生学」の研究を深め、広げることの必要性を訴えておられ、その成果の一部を論文として発表しておられます。熊本地震に際しては、藤本先生が翻訳なさった絵本を「熊本の子どもたちに」とたくさんご寄付いただきました。藤本先生と私は同じ熊本出身で、地震発生時、私は熊本に住んでいて避難所や仮設住宅の集会所へ絵本を抱え読み聞かせに走り回っていました。そのことを先生がお知りになり、いち早くご自身の翻訳絵本を送ってくださいったのです。師の愛を感じた贈り物でした。	
	
イラスト・山田白百合	

新入会員の自己紹介コーナー

稲田 八穂

はじめまして。筑紫女学園大学の稲田と申します。入りたいと願っていた絵本学会に、やっと入会することができました。よろしくお願いします。

幼い頃、父のおみやげはいつも本でした。1年生のとき、廊下でいつも一人で絵本を読むわたしを、担任の先生は障碍があるのではと思われたようです。デパートで買ってもらった絵本を、通路で寝ころんで読むような子でしたからさもありなんです。

小学校教師時代は毎日のように読み聞かせをし、教室には1,500冊の本を並べていました。現在は、初等国語科概論や保育内容演習(言葉)で学生に読み聞かせをさせています。来年度から認定絵本土の講座を開設すべく、奮闘中です。絵本の持つ力について、自分なりにもっと極めたいと思います。特に特別な支援を要する子どもたちにとっての絵本の可能性について研究していきたいと考えています。

後数年で退職、将来の夢は自宅に文庫を作り、読み聞かせおばさんになることです。

宇恵 明日美

はじめまして。私は大学在学時、グラフィックデザインを専攻し、絵本やパズルなどを制作しておりました。しかし、今はデザインや絵本とは無縁の仕事をしています。大学を卒業し早5年が過ぎ、ふと、もう一度絵本の世界に触れてみたくなり、今回入会を決意いたしました。学生の頃、毎日がむしゃらに絵本を描いていた情熱を取り戻すきっかけにしたいと思います。学会ではたくさんのことを学ばせていただき、自分でも絵本を制作していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

大貫 真寿美

はじめまして、大貫真寿美と申します。帝京大学で「絵画」「版画」「美術」「芸術と社会貢献」「幼児と表現」を担当しています。教員をしながら平面作品の制作発表を行ってきました。個展開催は25回以上です。装幀では『光の雨』(立松和平 新潮社 文庫本)『檸檬』(梶井基次郎 新潮社 朗読CD)『泥の河』(宮本輝 新潮社 朗読CD)などがあります。また、私自身の稚書は私の作品で装幀いたしました。今まで書籍と表現作品による相乗効果に強い関心がありました。この度「第22回絵本学会」に参加させていただき、ご発表者の絵本に対する柔らかな眼差しや、思想に関する思考や考察による重厚な研究などを目の当たりにしました。沢山の刺激と多くの視点を知ることとなりました。

さて、私はどのようなアプローチで絵本学会に参加するのであろうか?目下悩みつつも楽しみにしています。学びながら参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

小村 三千代(鳥取看護大学 看護学部 看護学科)

子ども専門病院で小児看護師としてお仕事をさせていただき、その後看護教育に携わり専門は小児看護学です。学生への講義では健康な子どもから病を抱えている子どもまで、絵本も活用しながら進めています。先日、子どもが入院することでご家族や兄弟はどのような状況に置かれるかを、絵本『お兄ちゃんが病気になったその日から』を用いて進めてみました。『弟さんの思いや考えが伝わって切なくな

りました』と、リアクションカードに記載していた学生がいました。

絵を描く才能は全く持ち合わせていませんが、治療法が確立していないため治癒することが難しい病気とともに生活している子どもと家族などを、絵本を用いて看護学生や子ども達に紹介できたらという夢を抱いています。例えば、筋ジストロフィーや重症心身障害、先天性難聴や1型糖尿病などの子どもなどです。どうぞよろしくお願いいたします。

近藤 聖子

会員の皆様、ご機嫌如何でしょうか？

この度、絵本学会の準会員の末端に加えさせて頂きました近藤と申します。

この4月から、東京学芸大学大学院で次世代日本型教育システム研究開発専攻の日本語教育で学んでおります。大学院に入学したことを機会に、自分のプチで褒美として?!入会させて頂きました☆

日本女子大学通信課程で学んでいた時に、絵本についての勉強を始め、教えて戴いた教授方について、絵本学会の学会を聴講させていただいたり、院生の先輩方の発表を聞いたりと、以前より絵本学会には特別な親しみを感じておりました。

これからは、自分の研究している日本語教育の分野から絵本を学んでいきたいと思っています。皆様のご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

杉本 孝美

はじめまして。杉本孝美と申します。子どもの頃から絵本が大好きで親しんできました。現在は、大阪府にある東大阪大学こども学部に所属し、主に英語の科目を担当しております。長年児童英語教育に携わり、絵本を取り入れた活動をしてきました。近年国際理解教育へ視野を広げ、またことばの教育としての児童英語教育実践研究を進める中で、絵本が欠かせないことに気づきました。また、自分の研究のみならず、目の前にいる学生さんたちが絵本を通して、学び直しができているように思っています。そんな絵本の力に魅せられ、絵本のことをもっと学びたいと思っています。新しい出会いと学びにワクワクがとまりません。どうぞよろしくお願いいたします。

竹内 識晃

皆さん、はじめまして。この度、絵本学会に入会しました、竹内識晃(たけうちのりあき)と申します。現在、東京都公立中学校教諭として働く傍ら、在野として主に昔話絵本の収集・研究を行っています。専門は、児童学です。好きな画家は、茂田井武、高橋真琴、高田美苗などです。

グリム童話の絵本と挿絵に強い関心を持っています。グリム童話のどの話が絵本として出版されているのかに興味があり、グリム童話の絵本書誌を作成しました。また、グリム童話の挿絵については、茂田井武の描いたグリム童話の挿絵を調査し、挿絵一覧にまとめました。「茂田井武 グリム童話挿絵一覧」.『グリム童話の絵本と挿絵展』所収、(グリムの里いしばし, 2003).「絵本で読むグリム童話選ーグリム童話絵本書誌」. 高木昌史(編)『決定版 グリム童話事典』所収、(三弥井書店, 2017). どうぞよろしくお願いいたします。

塚本 敏浩(名古屋経済大学 人間生活科学部・教育保育学科 教授)

はじめまして。この度絵本学会に入会させていただきました塚本敏浩と申します。専門は、図画工作・美術教育で、日頃は保育士、幼稚

園・小学校教諭を目指す学生に寄り添い、造形表現・図画工作科指導法の教育及び研究に従事しております。今回、図工関連の書籍や研究会を通じて本会について知り、その趣旨に賛同し、入会させていただく運びとなりました。私は、現在大学にて勤務しておりますが、現在に至る20年余りは公立の小中学校にて教職を務めて参りました。「絵本」の持つ世界観は、教育のツールとしても、研究の対象としても、その広がりには計り知れないと感じています。どれほど社会が多様化し、科学技術が発達しても、「絵本」が私たち人間に与える豊かな恵みは永久不変であることでしょう。だからこそ私たちの心を掴んで離さないその魅力について、本会の多くの同志の皆様と探究できることを楽しみにして止みません。どうぞよろしくお願いいたします。

徳永 加代(帝塚山大学 教育学部 こども教育学科 准教授)

はじめまして、徳永加代と申します。専門は、国語科教育、学校図書館教育です。令和元年6月15日に独立行政法人国立青少年教育振興機構による「絵本専門士」に認定されました。第5期絵本専門士養成講座を通して絵本の奥深さを知り、さらに学び続けたいと考え、入会させていただきました。

大学では、教材として絵本を取り入れています。学生が多くの絵本を読み、その絵本をどのように子どもたちに紹介していくのかを考えることができるよう、読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオバトルなど、学ぶ場を設定しています。絵本に関する研究を深め、保育士・幼稚園教員・小学校教員をめざす学生に、絵本の魅力を伝えていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

博多 哲也

はじめまして。博多哲也と申します。この度は入会を承認いただきましてありがとうございます。私は2008年よりイラストレーター・アニメーターとして活動し、昨年2018年より静岡文化芸術大学の実習指導員としてグラフィックデザイン・映像・写真の授業補助の仕事に携わっています。教育機関での仕事を始めたことを機会に、より多くの方と制作・研究について考えていける環境の必要性を感じ入会を希望しました。

イラスト・アニメートの仕事をする中で「どのように活用されるか」という部分を他者に決定される場合が多かったのですが、より自由になるためには自身でオリジナル作品(原作)を作っていく必要があると感じています。また、それらを発信しやすい環境を作っていくためにどのような方法があるのか、制作を通して考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

前田 敬子(仁愛女子短期大学 教授)

私の住む町、福井県越前市は、いわさきちひろ、加古里子の生まれ故郷で、小さいながら記念館もあります。近年『だるまちゃん公園』もでき、晴れた日は大勢の子どもたちが元気いっぱいに遊んでいます。私は、小学校の教員、高校国語科教員を経て、今は保育者養成系短大で教鞭をとっております。元来、金子みすゞや山川登美子(与謝野晶子のライバル)の研究など個人的関心の中心は「文学」「ことば」寄りですが、勤務校の「保育内容指導法」「子どもと言葉」の授業で、学生たちに絵本や紙芝居の紹介を続けるうちに、「絵」と「ことば」の兼ね合い、相乗効果に関心をもちました。そのため、他のところではなく「絵本学会」に入会させていただいたのです。「絵本」と言えば、小学校教員時代には赤羽末吉、高校教員時代には田島征三、その絵と創作

への姿勢に強い衝撃を受けたものです。最近は、郷土ゆかりの加古里子作品を辿っています。素敵な出会いの予感がします。

三林 真弓

はじめまして。私は、お茶処として知られる京都府宇治市にある大学で公認心理師・臨床心理士養成に携わっています。専門は、臨床心理学・子育て支援・スクールカウンセリングといった領域です。絵本との出会いは、同僚の研究室に山積みされていた「おおきな木」をふと手に取ったことがきっかけでした。シンプルな絵とストーリーにわずかの時間で心が揺さぶられ、絵本の力に感動した瞬間でした。それから積極的に絵本を手取るようになり、気付いたら『絵本ゼミ』と称する授業を開講するまでになっていました。講義科目「子ども学」では、授業のはじめに絵本の読み聞かせを受講生にしてもらっています。絵本を用いた臨床心理学的な研究を夢見ながらまだまだその途上にあります。2019年度の大会に初めて参加させていただき、基調講演や皆様のご発表からたくさんの刺激を受けました。ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

矢阪 亜希子

この度、絵本学会に入会致しました矢阪亜希子と申します。私は勤務している印刷会社で、絵本製造の拡販に取り組んで参りました。絵本は機能面だけでなく、お話しの世界観を表現するために、印刷や製本の技術を駆使することが多い品種です。現在でも斬新なアイデアによって、これまでにない造本の作品が登場することがあります。本当に絵本製造の奥深さには魅了されるばかりです。

現在業務に加え、読書支援のボランティアや絵本を紹介するライターなどへと活動の幅を広げています。その中で、絵本を様々な角度から眺めて研鑽を積んでいくのと同時に、私とは全く違った視点で絵本に向き合う方々と積極的に交流していきたいと考え、入会を決めました。私自身が絵本を存分に楽しみ、その魅力を少しでも多くの人に伝えていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

安田 とも子

はじめまして。ご縁あって絵本学会を知り、この度入会させていただきました。

小さい頃から絵本が大好きで、ぬいぐるみや人形を相手にお母さんや先生のマネっこをしてページをめくって読んであげたりしていました。また絵本の表紙が大好きだったので見えるようにずらっと並べたり、値札をつけて包装したりして本屋さんごっこをするのが私のお気に入りの遊びでした。大人になってからは保育士として23年…普段は乳児、幼児の子ども達と生活の中で大好きな絵本と一緒に楽しんでいます。

「子ども達の心を育む、大事な栄養となる絵本」1人1人が心揺さぶられる素敵な一冊に出会えるように、絵本を通じて子ども達の豊かな人生のお手伝いをしていきたい。その為にも作者の込めた想いを知ったり、専門家の方々の話を聞いたり、もっと深く深く絵本に心を寄せてたくさん学んでいきたいと思います。

＊「新入会員の自己紹介コーナー」では、新たに入会なさった会員の皆様すべてに執筆のご依頼をさせていただいております。万が一、ご依頼のメール等が届いていない場合は、学会事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

絵本学会理事会報告	
◎2018年度第3回絵本学会理事会　議事録 日　時：2018年9月28日(金)13:30～18:00 会　場：日本女子大学(新泉山館)4階　児童学科会議室 出　席：澤田精一(会長)　松本育子(事務局長)　生田美秋 今田由香　甲木善久　佐々木由美子　鈴木穂波 長野麻子　藤本朝巳　丸尾美保　甲斐聖子(事務局補助) ★第3回の議事録については、NEWS63号で掲載できなかったため今号で掲載する。 ◆報告事項 1 会長より 澤田会長より第3回理事会にあたり挨拶がなされた。 2 前回2018年度第2回絵本学会理事会議事録の確認 資料に基づき第2回絵本学会理事会議事録の確認がなされ承認された。 3 第21回絵本学会大会(2018年度)の報告について 大会実行委員長である杉浦氏より、資料に基づいて6月2日及び3日に札幌大谷大学短期大学部で行われた第21回絵本学会大会の報告がなされた。大会が無事に終了し、2日間での参加者は会員106名、一般87名、学生21名の総数214名があったことが報告された。大会の内容、次回大会に向けた反省点ほか郵送料、学生のアルバイト費や、会場費などにより赤字87,978円が出たことについて説明があった。 4 各委員会報告 ① 企画委員会 今田理事(委員長)より、資料が回覧され、①アンケートについては回答数が87件であり、回答者は、50代～70代が多かったこと、その内容や傾向。②9月8日(土)に行った「絵本学会Voice vol.0」の参加者が34名でありうち会員が14名であったこと、小規模ながら盛会であったこと。③絵本フォーラムの企画について、内容の検討をしていること。以上の3点について報告された。 ② 紀要編集委員会 鈴木理事(委員長)より、紀要編集委員に森覚氏が加わったことが報告された。 ・目録の作成は、石井光恵氏、坂本淳子氏、中島尚子氏、森覚氏に依頼することが決まり、上記4名には、会長名で、目録作成委嘱状の発行がされることとなった。目録の作成の担い手に苦労したこともあり、次回紀要送付時に、目録作成の公募文章を掲載してはどうかということも提案された。経費や謝金の扱いについても意見交換がなされ、非学会員に関しては、原則謝金を支払い、なおかつ経費についても精算する。学会員に関しては、経費を実費でお支払いするということが決まり、運用は委員長に一任することとなった。 ・経費削減のため、印刷会社を変える旨報告があった。 ・投稿規程については、紀要編集委員会の中でひきつづき検討していくことが報告された。 ③ 機関誌編集委員会 藤本理事(委員長)より、8月25日に第1回編集委員会が開かれた	
ことが報告された。編集委員3名に加え、中山氏に編集補助として協力いただくこととなった。松本事務局長より、朔北社からの売上金について、藤本理事より問い合わせを入れて欲しい旨伝えられた。 ④ 研究委員会 丸尾理事(委員長)より、研究助成について、以下3件の採用があった旨報告があった。 ● 個人研究・調査 ・「聴覚障害児に絵本を楽しんでもらうために――手話をまじえた絵本読み普及に向けた実践研究――」 申請者：玉井智子氏 ● プロジェクト研究・調査 ・「島多代が遺した言葉と蒐集絵本の研究」 申請者：代表・前沢明枝氏　ほか ・「絵本の読み方の相違による脳反応の変化――読み手と聞き手の相互作用について――」 申請者：代表・森慶子氏　ほか 絵本セミナーに関しては、チラシを作成し広報活動を始めた旨報告があった。 ⑤ 広報委員会 佐々木理事(委員長)より、NEWS61号が無事に送付された旨報告された。62号以降も4ヶ月毎に会員の手元へ情報が届くように、62号からの計画案が伝えられた。 ⑥ 特別委員会 生田理事(委員長)より、本庄氏(前委員長)より引き継ぎをおこなったこと、連携各所へ挨拶に出掛けたこと、理事会前に第1回特別委員会を設けたことが報告され、今後のスケジュールについても資料に基づき説明がなされた。 5 事務局より 松本事務局長より、以下の事項について報告がなされた。 ・会員募集のチラシの作成(2,000枚)と長形3号の封筒を作成し、次回事務局からの発送物を10月上旬に予定していることが伝えられた。会員募集のチラシは12月の発送時に2枚ずつ同封し、会員にも広報活動をお手伝いいただく旨が話された。 ・後藤仁氏の後援承諾の件について、個人の活動については、後援という形ではなく広報活動の支援を行うということが確認された。 6 「フォーラム・子どもたちの未来のために」について 澤田会長より、7月19日に行われた松本猛氏の講演が盛会だった旨伝えられた。 7 その他 特になし。 ◆審議事項 1 入退会者について(6月25日～9月28日) 以下の新入会者9名および退会者3名が承認された。 入会者：山崎あずさ、安部貴洋、山下彩華、小屋美香、上野直子、堀内古季、大河原悠哉、沢崎友美、池部和子 退会者：島多代、小峰紀雄、丸田まゆみ 2 事務局より 1.後援依頼があり、慣例にならない以下1件の事業後援をおこなうこととなった。 ★公益財団法人いわさきちひろ記念事業団	

「いわさきちひろ生誕100年　Life展　作家で、母で　つくるそでてる　長島有里枝」　(2018年11月3日～2019年1月31日) 2.入会資格について意見交換がなされた結果、入会資格については理事会及びメール審議などを経て事務局が随時受け付けるが、大会発表や研究助成、紀要投稿などの応募資格については、前年度末までに会員資格を保有する者とし、次年度より統一することが承認された。 3.理事の交通費について審議がなされ、基本は全額支給するということが承認された。辞退を希望する者は、松本事務局長まで個別に申し入れることとなった。 4.審議となった、第21回絵本学会大会の赤字について話し合われた結果、全額絵本学会の予算から補填することが決まった。 3 各委員会より ① 企画委員会 特になし。 ② 紀要編集委員会 鈴木理事(委員長)より資料に基づいて、紀要「絵本学第21号」のスケジュール案について説明され、承認された。 ③ 機関誌編集委員会 藤本理事(委員長)より資料に基づいて、『絵本BOOKEND』刊行について説明がなされた。 ・予算のスリム化の為に、判型を小型版に戻し128ページとすることや、出版社を変更することを含めて検討していくことが確認され継続審議となった。 ・R・コールデコット特集(画家賞)を特集とすることが決まり、各絵本賞について概略が分かるような資料をつけることが要望として出された。 ・「次世代に伝えたい絵本　絵本モニター」は会員が積極的に関われる場と言うことで、工夫しながら、今年度は継続することとなった。 ④ 研究委員会 特になし。 ⑤ 広報委員会 絵本学会のホームページに入会案内を掲載されることが承認された。また、絵本学会ホームページの仕様について、一度専門家に見てもらうことが認められた。 4 特別委員会について 生田理事(委員長)より、日本絵本研究賞の継続について現状の問題点、「選考シート」の内容などを整理し、次回理事会で議論したいという問題定義がなされた。理事それぞれがこれについて次回理事会までに考え、次回理事会にて継続審議することとなった。 5 日本学術会議協力学術研究団体への登録について 藤本理事より、説明がなされすぐには難しい旨の情報が共有された。次回名簿作成時にあわせ、必要な情報を会員からどのように集めるか、継続審議となった。 6 第22回絵本学会大会(2019年度)について 生田理事より、資料に基づき第22回絵本学会大会のテーマが「絵本と教育」であり、それに付随する概要・計画について説明がなされた。 ・大会参加費については、会員は1,800円、一般は一日1,000円とする。 ・作品発表のあり方について意見交換がなされ、次年度は現行の	
---	--

ままていくが、将来的には変えていけるように審議していくことが確認された。 ・研究・作品発表の募集日程については、昨年にならうということが決まった。 ・次回理事会時に、大会実行委員長である辻氏より詳細について報告を頂くことが確認された。 7 絵本学会20周年記念事業について 澤田会長より、書籍『絵本とは何か』(仮題)の出版事業について説明がなされ、継続審議となった。 8 その他 ・第23回絵本学会大会を熊本県南阿蘇村で行うことについて、藤本理事が資料を作成し次回会議で審議することとなった。	
◎2018年度第5回絵本学会理事会　議事録 日　時：2019年3月3日(日)13:30～17:45 会　場：日本女子大学(新泉山館)4階　児童学科会議室 出　席：澤田精一(会長)　松本育子(事務局長)　今田由香 甲木善久　佐々木由美子　藤本朝巳　丸尾美保 甲斐聖子(事務局補助) 辻政博(第22回大会の審議事項のみ) 委　任：鈴木穂波　長野麻子　生田美秋 ◆報告事項 1 会長より 澤田会長より第5回理事会にあたり挨拶がなされた。 2 前回2018年度第4回絵本学会理事会議事録の確認 資料に基づき第4回絵本学会理事会議事録の確認がなされ承認された。 3 各委員会報告 ① 企画委員会 企画委員長の今田理事より3月2日(土)に開催された「絵本フォーラム：人生は回り舞台ーささめやゆきの幻燈紙芝居」について、報告がなされた。参加者は53名(内招待2名)であり定員45名を上回る参加者に恵まれ、盛況であった旨伝えられた。 ② 紀要編集委員会 紀要編集委員長の鈴木理事が欠席のため、松本事務局長が報告を行った。 ・絵本学会紀要第21号について、修正の上投稿された論文4編について再査読の上審議が行われ2編を不掲載、2編を研究論文として採用することとなった。今年度は12編の投稿のうち、2編を採択することが決定された。 ・紀要編集委員会では、投稿規程と執筆要項について第23号の募集時に間に合うように、2020年度中の改訂を目指して進行中である旨報告がなされた。 ③ 機関誌編集委員会 機関誌編集委員長の藤本理事より、『絵本BOOKEND』の進捗状況について朔北社と相談し、ページ数を減らすことで、判型は大判のまま限られた予算での刊行を目指していることが報告された。また、松本事務局長から2018年度の売り上げ報告と振込を	

3月31日までをお願いしたい旨、藤本理事より朔北社に確認していただけるよう依頼がなされた。出版社を変えるなどの検討に入る場合、バックナンバーをどのように取り扱うかということについても、今後どのようにしていくべきか確認の必要性が話された。 ④ 研究委員会 研究委員長の丸尾理事より、2018年度の研究助成を受けた会員へ報告書の依頼を出し、今後提出されたものをとりまとめる予定である旨報告がなされた。 ⑤ 広報委員会 広報委員長の佐々木理事より、資料に基づき次号の学会NEWS 63号に掲載する内容について報告がなされた。第3回絵本研究賞の選考結果については、『絵本BOOKEND』との掲載内容が重複しないように、学会NEWS63号内で取りあげることが確認され了承された。また、次年度の学会NEWSは、3月・7月・11月(年3回)を予定していることが伝えられた。 ⑥ 特別委員会 生田理事が欠席のため澤田会長より、2019年2月1日(金)に行われた第3回日本絵本研究賞最終選考会結果について日本絵本研究賞、同賞奨励賞共に該当論文無しとして決定したことが報告された。その結果を受け、特別委員会では、今後、応募総数をいかにして増やすか、またその質をあげるかが議論となり、継続審議がなされていることが話された。 4 事務局より 松本事務局長より次のことが報告された。 ・会費納入依頼を含む発送について 4月10日までに、会費納入依頼と大会チラシなどを会員へ発送する予定である。 ・学会の経費現状について 学会の収支の現状について、資料をもとに説明がなされ、まずは、会費納入のお願いをし、助成金や、賛助会員を増やすなどの収入増加の努力をする必要が話された。 ・各委員会への依頼について 各委員会には、決算のための収支決算書の作成が依頼された。研究助成と「フォーラム・子どもたちの未来のために」に関しては報告書も必要。更に、各委員会で、この収支の現状を踏まえ、次年度の活動計画案を作成するよう要請があった。どちらも4月上旬までに松本事務局長まで提出することとなった。返金がある場合には、松本事務局長へと預けることとなった。 5 「フォーラム・子どもたちの未来のために」について 澤田会長より、過去2回分のフォーラムについて報告があった。次回は、3月25日(月)に山田健太氏を講師に開催予定だが、詳細は未定である旨伝えられた。 6 その他 特になし。 ◆審議事項 1 入退会者について(2018年12月9日～2019年3月2日) 以下の新入会者12名および退会者5名が承認された。 入会者：岡保由美子 辻本美津紀 田中健夫 小野寺美奈 當銘美菜 山西優二 小滝英俊 平松範子 関純奈 青木宏子 遠田博美 金子朝子	退会者：雄山美奈子 田中泰子 林田鈴枝 石橋裕子 梅野智美 除籍に該当する会員は、会費請求をし、それでも会費の納入が無い場合、次回の理事会を経て、次号の学会NEWSで除籍とすることが事務局より提案され承認された。 2 事務局より (1)後援依頼があり、慣例にならい以下3件の事業後援をおこなうこととなった。 ①「グラフィック・デザイナー 土方重巳の世界展～昔なつかし・昭和レトロ キャラクターデザインの先駆者～」刈谷市美術館 会期：平成31年4月20日(土)～6月2日(日) ②「『ねないこ だれだ』誕生50周年記念 せなけいこ展」朝日新聞社 横須賀美術館ほか全国巡回 会期多数 ③「第10回武井武雄記念 日本童画大賞」イルフ童画館 (2)事業後援を行った以下2件より会期終了の報告があった。 ①「平成30年度今治市大三島美術館 秋の企画展 国際児童文学館蔵 絵本原画展」今治市大三島美術館 ②「いわさきちひろ生誕100年 Life展 作家で、母で つくるそだてる 長島有里枝」公益財団法人いわさきちひろ記念事業団 3 第22回絵本学会大会について 第22回絵本学会大会校である辻政博氏より、資料が配布され、その資料に沿って順次検討された。 ・チラシについて チラシの内容について詳細の確認がなされた。3月末日までに大会チラシは530部を事務局に送り1,000部程度印刷することとなった。賛助企業を募り、現在3社にご協力いただけることが報告された。 ・プログラムは最低300部制作する。 ・研究発表・作品発表の座長が以下のように決定した。 ●研究発表 ・1日目 A室：藤本理事 B室：澤田会長 C室：鈴木理事 D室：生田理事 ・2日目 A室：今田理事・石井氏 B室：丸尾理事・甲木理事 C室：佐々木理事・長野理事 ●作品発表 司会・進行：藤本理事と大会実行委員である和田氏に依頼することとなった。 *座長は一部屋2名であるが未定のところは決定次第、事務局まで連絡することとなった。 ・記録の残し方について 学会NEWSやHPへどのように大会の記録を残していくか話し合いがもたれ、講演会・ラウンドテーブル以外の研究・作品発表に関しても少しでも記録を残していく方向で議論がまとまった。大会事務局ではなく、広報委員会でフォーマットを考え、大会実行委員会に提案し、大会事務局から各座長および司会に依頼を出すこととなった。 ・研究発表に関して 研究発表の座組が検討され決定した。 ・書籍販売、教材資料展示に関して 賛助企業による教材資料展示が5階フロアで実施されることとなった。書籍販売に関しては、美術出版エディケーションが大
---	--

会関連絵本などの販売も引き受ける旨、辻氏より報告があった。会員出版物販売については美術出版エデュケーショナルと確認をとりながら可能な範囲で対応することとなった。また、事務局のブースも設け、紀要や『絵本BOOKEND』の販売は事務局で行うことが確認された。 ・開会式および第3回日本絵本研究賞の報告の司会は生田理事が担当することとなった。 ・理事会の時間について 次回理事会は大会1日目の6月1日(土)10時30分よりS513で開催されることとなった。お弁当は各自手配することとなった。 ・総会資料について 総会資料は5月の最終週必着で事務局より送付することとなった。 ・今後のスケジュールについて 今後のスケジュールについて確認がなされた。 4 各委員会より ① 企画委員会 なし ② 紀要編集委員会 次年度紀要の申込期日を、9月30日(月)消印有効として良いかどうか、紀要編集委員長で本日欠席の鈴木理事に確認を取り、会員への周知のため、学会NEWS63号に掲載することが了承された。 ③ 機関誌編集委員会 2019年度『絵本BOOKEND』の内容について、藤本委員長より、資料を基に説明がなされた。内容の一部に関して、他の理事から意見があり、項目の立て方を変えるなどの措置を取り、委員会で確認を取りながら最終的な内容の確定は藤本委員長に一任されることとなった。 ④ 研究委員会 丸尾委員長より、2019年度研究助成について、応募要項と申請書が示され資料に基づいて説明がなされた。応募要項および申請書は4月中旬の事務局からの発送物に同封し、今年度の応募のメ切は、2019年6月30日(日)消印有効または、メールの場合には同日時間内とする。結果の通知は7月末日までに研究代表者宛に送付とすることが承認された。 ⑤ 広報委員会 佐々木委員長より、ホームページの管理・運営の移行について資料に基づき説明がなされた。 まず、現状についての報告があり、変更案が4つ示されたが、そのうち、変更を伴うことの無い、現状のドメイン／サーバー／メールサーバーをそのまま全て引き継ぐ案を採用することが提案された。初期費用と、月額費の詳細についても説明があり、今まで、一会員に任されていた部分を業務委託にすることによって、HPやメールマガジンの運用の活性化が見込めることなどから、予算増になるが検討された結果、了承された。 また、松本事務局長より、HPに経費納入口座を明記するページを設けて欲しいとの要望があり、入会の案内と共に、HP上に掲載することとなった。 ⑥ 特別委員会 なし 5 日本学術会議協力学術研究団体への登録について なし	6 第23回絵本学会大会(2020年度)および以後の大会開催について 第23回絵本学会大会について、資料に基づき藤本理事より説明がなされた。前回理事会の場に於いて、会場までのアクセスに関して、1日目の理事会開催に間に合わないというような意見があり、理事を送迎するマイクロバスを出すなどの対応を検討している。大会全体のテーマは、『大自然と絵本』、メインゲストに柳田邦男氏を想定していることが説明された。今後、母体となる団体の詳細や、予算案、宿泊地、アクセスなどを明確にし、赤字や混乱のないように進めるとのことで、第23回絵本学会大会は、熊本県南阿蘇村での開催が認められた。 7 その他 ・会員名簿(データ)が複数あるため本来ならば、一本化する必要がある。(佐々木理事) ・日曜美術館(2月10日)にスズキコージが出演予定である。(澤田会長) ・予算について、総会までに理事会がないため、そのことについて複数の理事より意見があり、次年度予算は出来る限りの予算削減と収入増加の可能性を探ることが確認された。臨時理事会の可能性についても言及されたが、松本事務局長が、まず決算資料および予算案を組みそれを基にメールでやりとりすることとなった。 ◎2018年度絵本学会臨時理事会 議事録 日 時：2019年5月26日(日)13:00～15:00 会 場：日本女子大学(新泉山館)4階 児童学科会議室 出 席：澤田精一(会長) 松本育子(事務局長) 今田由香 佐々木由美子 長野麻子 藤本朝巳 甲斐聖子(事務局補助) 委 任：生田美秋 甲木善久 鈴木穂波 丸尾美保 ★総会資料作成のために急遽2018年度絵本学会臨時理事会が開催された。 ◆審議事項 1 第22回絵本学会定期総会資料(案)について 第22回絵本学会定期総会資料(案)が配布され、作成した松本事務局長より以下の項目を中心に説明がなされ、審議をおこなった。 ・2019年度予算案について 2018年度決算報告書の実績をもとに、2019年度予算案について検討がなされた結果承認された。 ・2019年度活動計画案について 2019年度予算案に伴い、活動計画案が決定した。 ・会則の変更について 会費納入率の低さが議論された結果、会員資格に伴う会則の変更の議案が提出され、以下のような変更案を総会で提案することが認められた。 〈現行〉 第11条(入会、会費、資格停止、退会、除籍) 3. 資格停止 会費未納が2年を超えた者は、会員資格が停止される。会費未納が
--	---

3年未満であり、且つ、未納の会費が納入された場合には、その時点から再び会員として扱われる。

5. 除籍

会費未納が3年を超えた者は、除籍する。

〈変更案〉

第11条（入会、会費、資格停止、退会、除籍）

3. 資格停止

会費未納が1年を超えた者は、会員資格が停止される。会費未納が2年未満であり、且つ、未納の会費が納入された場合には、その時点から再び会員として扱われる。

5. 除籍

会費未納が2年を超えた者は、除籍する。

編集後記

・ たくさんの人に支えられて、今号も無事に発行することができました。今回は、6月1、2日に行われた絵本学会大会の報告が詳細に掲載されています。実は、初日に体調不良で欠席してしまったので、詳細な報告に心から感謝です。ご執筆くださった皆様、本当にありがとうございました。

（佐々木由美子）

・ 本号は、第22回絵本学会大会（帝京大学）関連の報告を掲載していただきました。報告は絵本研究と学会の今後の方向性、研究のヒントが詰まっています。都合で参加できなかった会員の皆さまもぜひお読みください。「日本絵本研究賞」は見直しを行うために、本年度の募集を中止することにいたしました。会員の皆さまのご理解をお願いします。

（生田美秋）

・ 今号も新たな会員の皆様に自己紹介原稿をお送りいただいて感謝しております。私の手違いで一部の新入会員の方に原稿依頼をお送りそびれてしまったことが先日分かりましたので、次号掲載になりますが追ってご依頼させていただきます。ご迷惑をおかけした新入会員の方には深くお詫び申し上げます。

（甲木善久）

・ 大会を毎年楽しみにしています。一年に一度、絵本を愛する方々や沢山の絵本に出会う機会です。NEWSで、その熱気が伝わりますように。みなさま今号もありがとうございました。

（宮崎詞美）



イラスト：井之口真央